

★★ 何が目的でそろばん教室に来ているのかな。 ★★

前回の報告から三か月以上も経ってしまいました。ガーナはすっかり暑さが戻り連日三十度越えの日となっています。これまでそろばん教室は日曜日に開室していましたが、2019年9月より土曜日に開室しています。土曜日は平日の分の補習授業としてサイエンスの授業もあり、そのサイエンスの授業に参加する生徒がそろばん教室に顔を出し授業を受けるかたちに現在なっています。写真に納めると4〜5人の時のそろばん教室とは違い、10〜13人なので、とても盛況に思えるそろばん教室なのですが、天邪鬼の私は(本当にそろばんを学びたい子どもは何人なのか?)と調べてしまうのです。これは、そろばん教室を始めて間もない頃に、教室が終わる頃にビスケットが配られるのを知って幼い兄弟を連れそろばんはやらないけれど、ビスケットを貰いに来た小さな子どもたち。また明らかにビスケットが貰えるからという理由でそろばん教室に来ていた子どもたち、こうした苦い経験がフラッシュバックして思ってしまうのです。そろばん教室の練習の合間に配っていたビスケットは、やがてそろばん教室練習後に配るパンに変わり、そしてまたビスケットになった今、集まった人数が多かったその日の終わりに「もうビスケットは無くしたの。サイエンスクラスもあって、そろばん教室だけビスケットはあげない。」と子どもに言った時に、数人の子どもが怒ったことが直ぐにわかりました。何も言わず教室から出ていく子どもの背中を見て悲しく感じずにはいられませんでした。もともと、そろばんをやるのにお腹を空かせては可哀そうだなという考えで始めたビスケットは、練習後にお腹が空いているだろうから。パンにしようとなり、そのパンの時

にも、学校側から「子どもにパンを与えるお金があるならその分を学校建設に寄付をしたらどうなんだ。」となり一時パンを配ることを中止せざるを得なくなったのでした。この時期に在籍していたのが、コンスタンスパトリック兄弟、ギデイオン、ダバスの少人数の時期でした。子どもにはもちろん理由は言えません。しかし「ごめんね。パンが買えないの。」と言って子どもたちは怒るでもなく、以後それが理由でそろばん教室に通わなくなるでもなく練習に取り組んでくれたのでした。ビスケットが無いからもうそろばん教室には行かないと思う子どもは出てくるのでしょうか。もしかしたら、今教室に来る子どもが多いので、私のどこかにこのビスケットを無くしてそれが理由で来なくなる子どもを私自身がつくりたいのでしょうか。そろばん教室に通う子どもは特別という考えは一切ありません。子どもは一人一人が特別な存在という想いの元で活動しています。しかし、子どもは(私はそろばん教室に通う特別な生徒)という考えがあるようで、十一月に6年生の授業でクリスマスツリーを作った際に中学1年生の生徒が交っていました。中学1年生のクラスは自習だったそうですが(私はそろばん教室の生徒だからトシコの授業に参加した)という言い分が、私には(あなたたちは特別だから良いわよ。そろばん教室の生徒は特別なもの。)という想いにはならず悶々としているのです。

子どもたちをとりまくこのビスケット問題、そろばん教室の生徒は特別な生徒だと思込まれていることへの対応と、そろばん教室は課題が多くあります。2019年12月のそろばん教室は2回開室です。不安でいっぱいです。不安でいっぱいでありながらも学びたいと自ら思う子どもは必ず教室に来ると信じて子どもたちが来るのを待ちたいと思います。

報告 TOSHIKO

協賛



トモエそろばん様